

平成 24 年 3 月 28 日作成 西内 満美子

平成 24 年 4 月 2 日修正 西内 満美子

第 67 回日本物理学会年次大会インフォーマルミーティング
(ビーム物理研究会総会) 議事録

日時：2012 年 3 月 25 日(日) 17:00-18:45

会場：関西学院大学 GB 会場

出席者(順不同・敬称略)：濱(会長)、鎌田、栗木、小山、小方、紀井、柏木、大熊、坂上、川瀬、日出、宮本(篤)、黒田、羽島、渡部、正木、西本、野田、佐々木、中村(剛)、阪井、庄司、佐藤、岡本、松葉、諏訪田、山本、神門、時田、想田、羽原、高井、中村(衆)、西内

司会：中村(衆)

書記：西内、高井

配布資料:

2012S-1：前回議事録

2012S-2：ビーム物理研究会会則

議事内容:

1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
 - A) 日本物理学会ビーム物理領域関連
 - B) ビーム物理研究会関連
 - C) 加速器学会関連
3. その他

1. 前回議事録確認

2011年8月1日に行われた第8回日本加速器学会インフォーマルミーティング(ビーム物理研究会世話人会)の議事録について、配布資料(資料 2012S-1)に基づいて概要を読み上げる形で確認が行われ、承認された。

2. 報告・審議事項

A) 日本物理学会ビーム物理領域関連

[大会関連]

A-1. 講演件数について・ビーム物理領域における過去8年間の講演件数(一般、シンポジウム)の推移が報告された。第67回年次大会での一般講演数は77(合同セッションを含まない場合70)件で例年並み。しかし、全領域中最小の講演件数である(領域13:物理教育、物理学史、環境物理学分野が次点の87件)。

・所属機関別の一般講演件数は、広大:12件、京大:11件、JAEA:10件、阪大:9件、早大:5件、東工大:4件、KEK:4件、産総研:3件、東北大:3件、その他:16件となっている(合同セッションを含む場合)。

・シンポジウム講演数は主催1テーマ(次世代放射光源への期待)、共催1テーマ(極限高強度場)の合計14件で例年並み。

議論

・シンポジウムと招待講演は、共催があるなしに依って、講演数が上下する。

・一般講演数は去年並みで維持できているが、全領域中最低数であることは変わらない。件数増加に向けて、声かけ等の努力が必要である。

A-2. 他領域との合同セッションについて

・領域2との合同セッションについては開催継続が確定しており、次回はビーム物理領域が主担当となる。

・年会の講演申込時に選択肢として下記の合同セッションへの参加希望を受け付けたが、希望数が少なく(実験核物:1件、素実:1件)実現に至らなかった。

- ビーム物理-素実
- ビーム物理-実験核物-素実
- ビーム物理-領域1(量子エレクトロニクス分野)
- ビーム物理-領域10(X線・粒子線分野)

議論

- ・合同セッションが成立しないのは、認知度が低いせいであろう。共同研究先などに積極的に声をかけ、宣伝するべきである。
- ・さらに、合同セッションを立ち上げた際には、その旨をメーリングリストに随時流すようにする。
- ・合同セッションとしてどのようなテーマがあり得るのか、合同セッション向けのテーマをあらかじめアナウンスしておくことも必要である。
- ・合同セッションでの講演数もビーム物理領域の講演数としてカウントされる。講演数を増やすためにも積極的に活用したい。
- ・合同セッションへの参加を希望してもセッション自体が成立しなかった場合は、一般講演に組み込まれる。逆に、一般講演が合同セッションに組み込まれる可能性もある。

A-3. 若手奨励賞について

今年度該当者なし(応募は1件のみ)。前回の受賞講演は中止となったので、本年次大会で発表していただいた。

議論

- ・応募件数が少ない状態が続いている(前回：2件、今回：1件)。博士論文も審査対象となるので、学位取得者には特に積極的な応募をお願いしたい。指導教員の協力も必要。
- ・募集はメーリングリストに流れる。
- ・若手奨励賞の授与可能件数は、過去3回の大会における講演件数を基に3年ごとに更新される。現在の件数(2件)を維持するためにも、講演数を増やす努力が必要である。
- ・これに関連し、IPAC'12のStudent Grantでも日本からの応募が少ないことが報告された。指導教員は学生が積極的に応募するよう注意すべき。

A-4. 秋季大会(京都産業大学・9/11-14)について

例年通り一般講演の募集は行わないが、シンポジウムの企画は可能。5月14日締め切り。後日改めてメールでアナウンスすることになった。

A-5. 第 68 回年次大会(広島大学・3/26-29)について

プログラム策定までのスケジュールが示された。特に議論なし。

A-6. その他

報告・議論とも特に無し。

[領域運営関連]

A-7. 次期領域運営委員について

西内領域運営委員(任期 2011 年 10 月-2012 年 9 月)の後任領域運営委員・世話人(任期 2012 年 10 月-2013 年 9 月)として、京大化研の時田氏が承認された。現在の世話人体制は下記の通りとなる。

期間	世話人
2010 年 11 月～2011 年 9 月	羽原英明 (advisor)
2011 年 5 月～2012 年 3 月	中村衆 (現世話人)
2011 年 10 月～2012 年 9 月	西内満美子(現世話人)
2012 年 4 月～2013 年 3 月	高井良太(現在引き継ぎ)
2012 年 10 月～2013 年 9 月	時田茂樹

A-8. 新執行部について

・日本物理学会が一般社団法人へ移行したのに伴い、ビーム物理領域代表は現代表の濱会長が 2013 年 3 月まで任期を延長して務めることになった。ビーム物理研究会の次期会長には現副会長の安東氏、副会長には上坂氏が選出され、承認された。欠席された安東氏に代わり、濱会長から安東氏の就任メッセージが読み上げられた。ただし、安東氏は 1 年間での退任を望んでいる(通常の会長任期は 2 年)。また、安東氏は今年度で KEK を退職するため、これまで会長の所属先としてきた研究会事務局をどこに設置するかが問題となる。この会長任期、事務局の所在については、次回の世話人会や総会で引き続き議論する。

・事務局は当面の間東北大学(現所在地)におくということで承認された。

A-9. AAPPS 活動諮問委員会について

・羽原氏より AAPPS(アジア太平洋物理学会連合)活動諮問委員会について紹介があった。2013 年 7 月 14 日から 19 日にかけて第 12 回アジア太平洋物理会議(APPC12)が開催されるのに関係し、領域 2 の代表である安藤氏(東北大)よりビーム物理領域からも人を派遣してほしいとの依頼があった。プラズマ物理関連活動の活性化が狙い。中国のメンバーには初めからビーム物理関係者が含まれている。現在、アジア・オセアニアネットワークのコ

メンバーリストを作成中。候補者がいれば羽原氏まで連絡を。進展はメーリングリストで随時報告する。

・この AAPPS 諮問委員会への活動だけでなく、APPC にビーム物理領域として主体的に関わるべきとの意見があった。

A-10. その他

・鎌田氏より論文誌 PTEP(Progress of Theoretical and Experimental Physics)について紹介があった。これまでの PTP(Progress of Theoretical Physics)に高エネルギー実験やビーム物理、ビームインスツルメンテーション等の分野を加えて新しく創刊された。—Web 出版のみで閲覧は無料。9 月から一般投稿受け付け、2013 年 1 月に初版が Web 出版される見込み。是非積極的に投稿してほしい。

B) ビーム物理研究会関連

[研究会合関連]

B-1. 2011 年ビーム物理研究会(東北大電子光理学研究センター・12/8-9)の報告

濱会長より、2011 年ビーム物理研究会の開催結果について、以下のような報告があった。

- ・参加者 55 名
- ・初日終了後に懇親会、二日目終了後に施設見学と第 1 回若手の会(作並温泉)を実施した。
- ・旅費支給総額～50 万円(特別講演：1 件、大学院生：6 名)
- ・一般講演の講演時間は 35 分とした。講演の途中でも質問を受け付けるなど、議論がじっくりできるような発表形式にしたので、密度の濃い議論ができた。
- ・若手の会の参加者は 34 名だった。鎌田氏の講義と企業の方の講演 2 件に加え、合計 21 件の研究紹介があった。普段構築しにくい若手の横のつながりを構築でき、大変素晴らしい試みであった。第 2 回若手の会も次回の研究会とカップルして実施したい。

B-2. 次回ビーム物理研究会の開催場所・日時について

栗木氏より、次回(2012 年)のビーム物理研究会について、以下の提案がなされた。

- ・ホスト：広島大学(栗木氏)

- ・場所：研究会：広島大学先端研、学士会館等 若手の会：宮島、宮島口等
- ・日時：10-12月の木-金のいずれか。会場の予定を考慮してこれから調整する。候補日が決まったらメーリングリストでアナウンスする。
- ・招待講演案、プログラム委員等については、前回のフォーマットに沿った形で決める。
- ・次々回(2013年)の研究会は沖縄(OIST、新竹氏)を予定しているが、旅費の問題がある。

B-3. その他

報告・議論とも特に無し。

[研究会運営関連]

B-4. 世話人会に関する会則の改正について

- ・前々回の議論として、現在の会則・細則では、世話人の選出に総会での承認を必要としているため、新たに世話人となってほしい人間がすぐに活動できないという問題が指摘された。そこで、前回の世話人会において、随時「みなし世話人」の形で世話人会メーリングリストへの登録を可能とし、正式な世話人への就任は今までと同様に総会での承認を必要とすることで同意された。
- ・会則の具体的な改正案として、第5条の6に「世話人代表は随時『世話人候補』を指名出来る。総会での承認を待たずに『世話人候補』は世話人会メーリングリストへ登録され、実質的には世話人として活動出来る。」という条文を追加することが提案され、承認された。

議論

- ・現在の世話人の仕事は不明瞭で、世話人メーリングリストに意見を求めてもレスポンスがほとんどない状態が続いている。今回の改正を機に、世話人間のコミュニケーションを活発化していきたい。

B-5. 若手の会の進捗について

柏木氏より若手の会について、下記の通り進捗の報告がなされた。

- ・2011年ビーム物理研究会終了後、第1回若手の会を開催。盛況のもと無事終了した。
- ・プログラムについてはいろいろと検討したが、加速器関連のテーマに少し偏った傾向

がある。次回は全体のバランスを考えて企画したい。

- ・ 次回の若手の会の取りまとめは、宮本氏(広大)にお願いすることとなった。

B-6. ホームページの運営と Web サーバーの管理について

・ ホームページ運営は、現在小方氏から安東氏に引き継がれている。しかしながら、安東氏は 4 月より会長への就任が決まっており、多忙となることが予想される。ホームページの更新頻度を上げるためにも、運営に関しては若手で構成されたチームに引き継ぐのが望ましい。ホームページ運営については宮本氏(広大)、Web サーバー管理については佐藤(政)氏(KEK)を中心としたチーム作りを進めている。若手の協力をお願いしたい。

・ ホームページとしては、毎日更新されるようなものであることが望ましく、研究会の予定や求人情報等の様々な最新情報を集約させたい。

・ ホームページに載せるべき情報の募集は、運営の担当者が定期的にメーリングリストに流すが、情報に気付いた方は随時担当者までメールで知らせてほしい。

B-7. その他

- ・ 会員名簿とメーリングリストの管理について

今までは中村(剛)氏が厚意で担当されていた。今後どうするかは議論が必要。名簿の更新、入会、退会管理の整理が必要。

議論

- ・ 以前行っていたように、所属の変更が多い 1~2 月にメールで注意喚起してはどうか？
- ・ 中村(剛)さんの後任は SPring-8 所属の方をお願いすれば引き継ぎが楽で良いだろう。

C) 日本加速器学会関連

C-1. 第 9 回年会について

2012 年 8 月 8 日(水)から 11 日(土)にかけて、大阪大学豊中キャンパスを会場に開催される。発表の申込締め切りは 6 月 11 日(月) 12:00 となっている。

議論

- ・ 加速器学会誌にビーム物理研究会の活動報告を投稿する予定となっている。他の話題での投稿も歓迎。

C-2. その他

報告・議論とも特に無し。

3. その他

3-1. 次回世話人会について

次回世話人会については、2012年8月の第9回日本加速器学会年会の開催期間中に行うことが承認された。

3-2. その他

報告・議論とも特に無し。

以上